

議会だより

ワットサム

※「ワットサム」とはアイヌ語でワット（にれの木）・サム（傍）という意味で、わっさむの由来です。

第106号 2022年2月4日

おためしごども食堂
説明（9ページ）

- p2 2022年、年頭あいさつ
- p3 議会報告会
- p5 こんなことが決まりました 臨時特別給付金
- p7 一般質問 2議員が登壇
- p10 所管事務調査視察報告 ～芳生苑の今後は～
- p12 町民インタビュー聞かせて JA北ひびき青年部和寒支部

新春を迎えて

和寒町議会議長 佐々木広行

町民の皆様におかれましては、令和4年の新春を、ご家族お揃いでお迎えできましたことに、心から喜びを申し上げます。

また、日頃から議会活動にご理解とご協力をいただき、議員一同深く感謝とお礼を申し上げます。

さて、令和3年を振り返りますと、新型コロナウイルスの猛威により、町民の皆様にはマスク着用を始め、感染防止対策にご協力をいただいた1年でした。

7月からオリンピック、パラリンピックの各種競技が日本各地で開催され、日本選手の活躍に感動と勇気をいただきました。

また国政では岸田内閣が発足し、これからの日本経済と安心した暮らしの回復に期待しているところです。

本町を振り返りますと、基幹産業の農業は、融雪も早く播種作業も順

調に進みましたが、6月から始まった猛暑と干ばつにより畑作物の被害、減収になり、農家の皆様にとつては苦しい1年でありましたが、今年も豊作でありましたことを願っています。

また、70年続いた町立病院が4月から無床診療所化となり、議会では初の町議会議員補欠選挙が行われ、新たに2名の議員が加わり、全体を通じて節目であった年と感じています。

更に新型コロナウイルスの影響により、町民の皆様が楽しみにしていたイベントの中止、飲食業を中心として町内消費の落ち込みが続き、コロナ禍の終息と一日も早い町内経済の回復を望んでいるところです。

最後に、町民の皆様にとつて希望に満ちた明るい年で益々のご健勝とご多幸を祈念申し上げます。新年のご挨拶いたします。



議長 佐々木広行
副議長 中原 浩一

総務福祉常任委員会

委員長 下條 美恵
副委員長 小野田久美子
委員 小野田久美子
委員 中原 浩一
委員 石田 利美
委員 村岡 敏一

産業教育常任委員会

委員長 谷口 勝弘
副委員長 窪田 裕二
委員 窪田 裕二
委員 中原 浩一
委員 酒向 勤
委員 池澤 哲也

議会運営委員会

委員長 酒向 勤
副委員長 石田 利美
委員 石田 利美
委員 中原 浩一
委員 下條 美恵
委員 谷口 勝弘

議会広報委員会

委員長 小野田久美子
副委員長 谷口 勝弘
委員 谷口 勝弘
委員 下條 美恵
委員 村岡 敏一
委員 池澤 哲也

議会選出監査委員

窪田 裕二

町民と意見を交換

～コロナ禍で10月開催～



多数のご意見ありがとうございました

10月18日～19日に、町民センター・東山自治会館・三和・菊野自治会館及び中和自治会館の4会場で、27名の参加を得て議会報告会を開催しました。

内容は、各委員会から議会活動の報告をさせていただき、その後参加された皆さんからご意見を伺いました。

議会からはこんな報告をしました

■産業教育常任委員会

- 公営住宅について
- 教育振興について
- 新型コロナ対策支援事業について
- 観光資源の活用について

■医療及び福祉施設等調査特別委員会

- 委員会の審議経過について
- 診療所・芳生苑の運営状況について

■総務福祉常任委員会

- 財産の管理状況について
- ごみの有料化について

■議会広報委員会

- 議会動画配信の状況について
- 議会だよりの発行について

■議会活性化等特別委員会

- 議会議員の長期休暇による報酬減額について

意見交換

Q 燃やせるごみは愛別に運ぶが、これから先ずっとなのか。

A 西和処分場は、このまま受入れると5年以内に満杯になる試算が出ており、燃やせるごみは今後愛別町で処理することで協議を進めている。

燃やせないごみは、西和処分場に今まで同様埋め立てをしていく。

Q 診療所の2階を活用することはできないのか。

A 現在は出張医などの休憩所や、コロナワクチンの予防接種で使用している。

他町村では、サービスタ付き高齢者住宅として利用している例もあり、アイデアを出して

勉強していく。

Q コロナワクチン接種の3回目は検討されているのか。

A 国から3回目ワクチン接種の説明会が行われ、本町では医療関係者から順次接種を行う予定。

Q 高齢者への配食サービス事業はどのように進んでいくのか。

A 9月末までのモデル事業では、町内飲食店が弁当を作り配達していた。配達して安否確認するのは負担が多くなるのと配達を分けてテストを続けていく。



▲宅配弁当 (イメージ)

Q カントリーエレベーターは、現状のまま運営していくのか。

何年間かの目標を立てなければ後々困るのでは。

A 一昨年JA北ひびきから米だけでは採算が合わないの、麦も乾燥させてほしいと産業教育常任委員会で農協役員と意見交換しながら認められた経過がある。

Q スクールバスの時間が遅く、始業ギリギリに着くと聞いている。授業の準備もあるのでは5分だけでも早くならないか。

A 学校に着く時間を10分早くすると最初に子どもが乗車する時間が早くなりすぎることもあり、難しいと聞いた。



Q ICT教育で子どもにタブレットを持たせるのは良いが、その事でいじめなどに繋がらないか。

A 暗証番号などが設定できるので、外部から書き込みなどがあることは無い。問題点があれば指摘しながら改善を求めたい。

Q 農村生活体験実習生の今後は。

A 実習期間が終わってからも農業を続けたい人が多い。実習後の受け皿が必要であり、色々な対応を含めた体制を協議していく。

Q 稲わらの焼却について何らかの対策は。

A 稲わらは燃やさないのが原則で違反になる。

せん息等で大変だと聞いたので、町が独自に対策を取るべきと意見を出している。

Q 最近、専決処分案件が非常に多い。議会としては本来容認できないものだと思うが。

A コロナ禍で困っている方々があり、早急に解決するための専決処分と言われれば、臨時議会まで待てと言えない部分もある。

一方では議会軽視に繋がりがかねない話でもあるので、行政と協議していく。

12月定例会

あらまし

12月定例会議（第4回定例会）は、令和3年12月16日に開催しました。
町長の行政報告のあと、一般質問では2人の議員が登壇、条例改正と補正予算の議案審議をしました。なお、今定例会の傍聴者は延9名でした。

臨時特別給付金

【令和3年度和寒町一般会計補正予算】

※子育て世帯への臨時特別給付金を10万円にする追加補正で、1890万円の増額補正を可決しました。

※子育て世帯への臨時特別給付金事業とは

新型コロナウイルス感染症の影響を受けている子育て世帯の生活を支援する取り組みとして、18歳以下の児童のいる世帯に対し、臨時特別給付金の給付を行うもの。
給付事業費及び事務費は国が10割補助を行う。

給付対象は平成15年4月2日から令和4年3月31日までに出生した児童（対象児童）がいる世帯で児童手当法に定める所得制限限度額を超え、「特例給付」に該当する受給者は支給対象外となります。

指定管理

【公の施設の指定管理者の指定について】

三笠山自然公園と東山スキー場の指定管理を、道北環境整備協働組合に指定することを可決しました。

期間は令和4年4月1日から令和7年3月31日までの4年間です。

道北バスへの補助は

補正予算

【一般会計補正予算】
（全員賛成可決）

冬の生活応援助成金や生活交通路線維持運行補助など、総額で2億2442万円の増額補正を可決しました。

主な質疑

【生活交通路線維持運行補助事業】（709万円）

問 原則昨年1回だけの支援だと聞いていたが、他町村も同じように支援しているのか。
また、昨年度より高くなっているのは何故か。

答 名寄線が通っている自治体にはそれぞれ支援の要請がされており、他町村も支援している。

補助額の差はコロナ禍による被害が昨年度より大きかったため、支援額も大きくなった。

問 これからも沿線の自治体は毎年支援していくことになるのか。

答 毎年支援をする今の状態は問題があると思っっている。
公共交通機関全体の在り方を北海道が中心になって考えなければ解決しない問題。



上川中部広域二次救急医療（病院群輪番制）への加入

名称	保健所	医療機関	費用負担市町村
上川中部	上川	旭川厚生病院 旭川赤十字病院 国立病院機構旭川医療センター 市立旭川病院 旭川医科大学病院	★旭川市 鷹栖町 東川町 東神楽町 当麻町 愛別町 比布町 美瑛町 上川町 幌加内町 和寒町 1市10町
上川北部	名寄	名寄市立総合病院 士別市立病院	★名寄市 士別市 和寒町 剣淵町 下川町 美深町 音威子府村 中川町 幌加内町 西興部村 浜頓別町 中頓別町 枝幸町 2市9町2村

★市町村負担に関する協定及び負担額算出の業務を行う事務局自治体

上川中部医療圏
に加入

〔広域2次救急医療負担金〕
（31万7千円）

和寒町立病院が無床診療所になったことを踏まえ、旭川市でも救急医療が受けられるよう、上川中部の広域医療圏に加入しました。

問 上川中部の広域に入ることで何かデメリットはあるのか。

答 デメリットは基本的に無い。

今回の上川中部広域2次救急の輪番制の中に本町が入るのはこれまでにない形で、本町は上川北部圏域にあるが旭川市への受診が非常に多く、それを説明し理解頂いた上での輪番制加入ということ。

みんなの声を国政に

公益に関わる次の2件について、議員から意見書案を提出しました。
第4回定例会において審議の結果可決され、関係行政省庁などに提出しました。

地球温暖化、海水温上昇に伴う水産漁業被害の解明と支援策を求める意見書

提出者：中原浩一 賛成者：酒向勤、石田利美、下條美恵、谷口勝弘 採決結果：可決（全員賛成）
提出先：衆議院議長、参議院議長、内閣総理大臣、内閣官房長官、財務大臣、総務大臣、農林水産大臣、国土交通大臣、厚生労働大臣、環境大臣

（要旨）

北海道内では海水温の上昇が漁業に大きく影響を及ぼしているものと推察され、毎年その被害状況は増してあり、サケ・サンマ等が減少し長期的には、昆布の水揚げも激減してきている。

漁業従事者のみならず、関連する水産加工業者への影響も含め、地域経済に大きなダメージを与え地域の活力を削ぎ、地域の衰退を招きかねない。

よって国においては、措置を早急に講ずるよう強く要望する。（全6項目）

燃油等の価格高騰対策、国の農業予算や運用変更に関する意見書

提出者：中原浩一 賛成者：石田利美、谷口勝弘、村岡敏一、池澤哲也 採決結果：可決（全員賛成）
提出先：内閣総理大臣、財務大臣、農林水産大臣

（要旨）

新型コロナウイルスの感染拡大により世界的に停滞していた経済活動が回復期に入ったことから、原油需要が拡大するなど価格上昇を続けており、今後一層の需要増大が見込まれています。一方、石油産油国はコロナウイルスの再拡大を恐れ、増産には消極的な姿勢にあることから、需給環境を悪化させており、価格高騰に拍車をかけています。

ついては、食料の安定供給と農業の持続的発展を図るため、燃油等の価格高騰対策、水田活用直接支払交付金などについて、万全な政策を講ずるよう要望致します。（全3項目）

小野田久美子議員



問 子どもの見守りと居場所づくりを 答 今後も関係機関との連携に努める

子どもの見守りと居場所づくりへの取り組みは

厚生労働省は、新型コロナウイルスの影響で子育てに悩む保護者の孤立リスクが高まり、感染拡大で地域の子どもを見守る機会が減ったため「子どもの見守り強化アクションプラン」を公表したが、本町の子どもの見守り強化と国や北海道が推進している居場所づくりへの取り組みは。

奥山町長

本町では、平成30年4月に学校や保育所、こども館、児童相談所、保健所、警察のほか児童に関わる関係者で構成する要保護児童対策地域協議会を設立し、国のアクションプランの対象となる子どもや世帯の情報を共有している。

児童虐待に繋がるような案件については、実務者レベルで適宜連携をとって対応し、その後の経過についても、観察や指導などの対応を継続している。

新型コロナウイルスの影響により休業や自粛で配慮が必



▲児童相談所虐待対応ダイヤル

要な子どもへの対応について、文部科学省や厚生労働省から出されている通知に沿って見守り強化に取り組んでおり、さらに青少年育成町民会議で安全見守り隊やこども110番のほか、交通安全指導員、民生委員、児童委員の協力により子どもたちの見守りが重層的に取り組まれている。

子どもの居場所づくりについて本町では、ドキドキクラブやジュニアイングリッシュ講座、フレンドパーク、放課後児童クラブや公共施設開放のほか、地域の子ども会や文化スポーツの少年団などが子どもの居場所になっている。

今後も関係機関との連携に努める。

○再質問

児童虐待対応ダイヤルやオレンジリボン運動など情報の周知は。

保健福祉課長

保育所や小中学校に通う子どもの保護者には、児童虐待対応ダイヤル189（いちはやく）の周知のためパンフレットの配布をしている。

※オレンジリボン運動とは

「子ども虐待のない社会の実現」を目指す市民運動。オレンジリボンは、そのシンボルマークであり、オレンジ色は子どもたちの明るい未来を表している。

○再質問

子どもの居場所づくりとして内閣府や農林水産省で支援制度があり、子ども食堂など今後立ち上げを検討される方に対し、行政がサポートして経費や運営に関して取り組んでほしいが、町の考えは。

保健福祉課長

町として子どもの居場所づくり事業の支援をしていくことになれば、国が設けている交付金を使って助成をすることも出てくると思う。これまでこういった事業がなかったため、担当係が把握しなければならぬ。民間団体には親切丁寧に説明をし、どこまで行政として支援できるのか、しっかり勉強したい。



▲旭川市北門こども食堂

問 奥山町長が考える3期目の公約は

答 これまでの政策を前に進めて行きたい



石田利美議員



3期目の公約は

1期目はふるさと和寒町をもっと元気に、という公約で「安心して暮らすことのできるまちづくり」「産業育成による活力あるまちづくり」「ひとが輝くまちづくり」の3本の柱で推進し、2期目は「協働のまち未来につながるよう和寒町」のテーマで事業見直しを行い、持続できる町政として2期8年間行政の指揮を執ってきたが、結果と反省点は、9月の一般質問で立起を表明したが、奥山町長が考える3期目の公約は、

奥山町長

2期8年の結果と反省点については1期目は「ふるさと和寒町をもっと元気に」をキャッチフレーズに、高齢者福祉政策として、おでかけハイヤー支援事業や、なごやかサロン応援事業、人口減少・地方創生対策として、マイホーム応援事業、農業経営力事業など、教育面では、教員住宅の改修や教育アドバイザーの設置、学校給食費の負

担軽減など、まちが元気になることを目標にして、各事業を創設し取り組んできた。

2期目については「協働のまち未来につながるよう和寒町」をキャッチフレーズに、持続可能な自治体を目指して、使料、手数料や水道料金などの事務事業の見直し、令和3年4月に病院から無床診療所となり、議会や町民の理解と協力により遂行することができ、結果として町の財政改革につながったと考えている。

反省点は、当選以来できるだけ多くの町民と会い、耳を傾けていくことに努めてきたが、2年にわたりコロナ禍によって、町民の皆さんと会える機会が大幅に減り、声が聴けなかったこと、それぞれに含めて、まち全体のバランスが取れた町政を進めることができたのか自問している。

3期目の公約の1つ目は、住んでいて良かった、住み続けたいと思う魅力のあるまち、高齢者福祉施設の建て替えと、在宅福祉サービスの充実に努めたい。

2つ目は、JR塩狩駅の存続と周辺地域と整備による観光振興に努めていきたい。

3つ目は、新規就農者の受け入れなど、人口減少対策に取り組みたい。

子育て環境の充実に努め、具体的には、医療費無償化を高校生まで拡充したい。

これまでの政策を前に進め、和寒町の魅力をさらに高めることを目指して、3期目に挑戦していきたい。

〇再質問

浄水場建設、圧雪車、除雪ロータリなどの高額なものを導入する際に、補助金を有効活用できないのではないかと。

建設課長

浄水場建設は平成28年、29年で計画していたが、1年目の時に3割しか補助金が付か



▲新規購入の圧雪車

いことで2年目に人件費が高騰し、結果的に2億円以上費用が上昇した。

副町長

壊れそうだからといって新しいものにはならない。情報を得ながら補助金の状況も考え、町にとって有利なものになるように努めていく。

Topic 議会

12月2日開催
第4回町議会
臨時議会

介護保険特別会計補正予算
算 (8名賛成可決)

高齢者の弁当宅配モデル事業に伴う140万円の増額補正を可決しました。

主な質疑

問 75歳以上が対象というのだが、対象年齢を引き下げる考えは。

答 当初予定していた75歳以上よりも高齢な方が多く利用されている。在宅生活を継続するための支援という目的から、対象者を広げるといふより必要な方を対象とする考えを持っている。



問 コロナウイルスワクチン接種の3回目は土曜日や夜間も行うのか。

主な質疑

答 医師と相談し、接種人数の想定が多い4月以降に月曜、木曜の夜間と土曜日に接種できるように、スケジュールを立てていく。

閲覧統計

令和3年度9月定例会一般質問7名

- ・総視聴回数 188回
- ・平均視聴回数 27回 (一人当たり)
- ・総再生時間 21時間30分
- ・平均再生時間 3時間20分 (一人当たり)

町民に開かれた議会を目指し、議会からの情報発信、情報公開等を積極的に行うため、一般質問の動画を配信しています。和寒町議会ホームページから閲覧することができます

<https://www.town.wassamu.hokkaido.jp/>

お問合せ：gikai@town.wassamu.lg.jp

表紙の説明

「おためし」 子ども食堂

今回の表紙は、12月27日に公民館で開催された、おためし子ども食堂の様子です。

子どもの見守り、居場所づくりの一環として、町民有志が企画・実施しました。小学校児童と小学校で教育サポートに参加した大学

生など約40名が、おにぎり、豚汁、かぼちゃ団子を美味しく食べていました。

子ども食堂を企画した瓜るみ子代表は、「食材の米や野菜などは町内の方から寄贈していただきました。

今後、事業形態を検討し、継続していきたい」との事でした。



議会動画



芳生苑の今後は

＝視察報告＝



寿光会エテルナ

医療及び福祉施設等調査特別委員会

令和2年1月16日に日本で初めて新型コロナウイルス感染症が発生してから、議会活動も一変して視察などの自粛が始まり、計画していた視察などの延期・中止を余儀なくされてきました。

当特別委員会では令和3年4月より病院から無床診療所へ移行することのことで、令和2年8月31日に滝上町・幌加内町を視察しました。

令和2年7月に町民アンケートなどを行い、利用者の不安解消や理解を深めるべく診療所化に向けては、行政への質問状などの対応を図ってきました。

その後、昨年末までの約1年半で延べ18回の特別委員会を開催した経過にあります。

これからも町民の皆様には、まだまだご不便をおかけしていますが、今



▲エテルナ内部

後も多くのご意見を踏まえた医療運営に、議会としても研鑽を重ねて参りたいと思います。

老朽化している特別養護老人ホーム芳生苑においては、事業運営の方法・建替えと場所・多床個室ユニット・大きさ等について、議会としても先進地視察など行い議論を重ねてきた経過にあります。

行政側から町外社会福祉法人との協議を行っている旨の報告を踏まえ、

2年前から協議先の法人への視察を予定していましたが、コロナ禍での福祉施設と言つこともあり自粛していましたが、昨年11月からコロナ禍も落ち着きを見せたことから、社会福祉法人「寿光会」を含む圭泉会グループに、昨年11月12日によつやく議員7名(事務局1名)、町長を含む行政側4名で視察をしました。

まず、旭川市近文に建設された新しい「寿光会エテルナ」特養施設内を見学しました。4階建ての建物でしたが、それぞれの階は個室ユニットとして機能しており、浴場や簡易食堂等を有し利用者が生活しやすい空間など、近代的な施設であると感じてきました。

その後、食事製造工場NPO法人ベネッセレが運営している「クックチルエリア」の工場内を見

学しました。障害者等の就労や生きがいづくりの場を生み出す施設としても活用され、約3日分の総菜などをグループ施設へ配送しているそうです。

幌加内町の特養施設も圭泉会グループで指定管理運営をしており、食事の配送も行っているそうです。

次に東旭川、永山地域へと移動して「リポソ」と「ヴィラ・エルモ」など、幾つもの高齢者住宅を見学し、「旭川圭泉会病院」や隣に位置するさわか・やすらぎ・老健ことぶき・ふくろうなどの介護住宅型有料老人ホーム施設も見学しました。

その後、新築移転して7月から開設した東旭川病院内を視察し、それぞれの高機能を有した医療機器などの説明を聞きま



いる幌加内町の施設「テルケア」の運営、医療との係わりなどの質問や、養護老人ホームと有料老人ホームを一体として運営できるのか、適正床数や本町診療所との係わりなどの質問に対し、丁寧な回答を頂きました。

老朽化した芳生苑においては問題も山積しており、町民の皆様のご意見も賜わりながら、圭泉会グループが受入れ法人として適正かどうか、議会としても精査して参りたいと思います。

委員長 中原浩一

総務福祉常任委員会

剣淵町ごみ処理施設
視察報告

ストックヤードの大きさを議論

議会だよりフットサムの第105号で、ごみ有料化に向け議論していることを報告しています。その後、ストックヤード(ごみの保管庫)の建設で、大きさが24坪との提案を受け、これまで視察してきた自治体の実態も考えて、令和3年4月より粗大ごみを有料化した剣淵町へ9月28日に視察研修を行いました。

剣淵町はごみ処理施設が1箇所に集約され、効率的だと感じました。将来的にストックヤードの増設も必要と思われるので、今後はバッカー車(ごみ収集車両)を増車する予定とのことでした。本町で今後建設するストックヤード等の施設は、働くスタッフが使い易いこと、町民が搬入時に分かり易いこと、既存の施設が老朽化した後のことなど、将来を見据えた全体像を考えて建設すべきと思います。視察後委員会で意見をまとめ、質問事項を整理し、10月4日文書で行政側に質問を行いました。



▲剣淵町ごみ処理場のストックヤード

10月15日開催の委員会で質問事項の回答があり、概ね内容は把握したものの、ストックヤードの大きさは以前の24坪のままの考えだったため、将来を見据えて60坪とすべきではないか議論しました。その結果12月3日開催の委員会で、ストックヤードの大きさを60坪に変更し、保管容量が十分確保できることになりました。

燃やせるごみと燃やせないごみについては、専用のごみ袋を購入いただき、ごみを出してもらったことを考えています。

今後はその大きさと、町民に負担いただく金額について十分な議論を行っていきます。

町民インタビュー 聞かせて



スキルアップを 図りたい

J A北ひびき青年部和寒支部の石田剛支部長、宮崎和博副支部長、山住雅樹副支部長に、お多幸にてお話を聞かせていただきました。



▲左から副支部長 宮崎和博さん 支部長 石田剛さん 副支部長 山住雅樹さん

会の発足は

平成16年に農協合併によりJA北ひびきの発足後、平成19年に北ひびき農業協同組合青年部が誕生し和寒支部としての活動は今年で15年目になります。

会員は現在35名です。

会の活動は

主に、夏期研修、農業用廃プラスチック回収事業、冬期研修、資金造成草刈り、子供農業体験の他、各種JA事業への参画、町内イベント協力など様々な活動を行っています。

子供農業体験では、和寒小学校3年生児童を対象に、町内の特産品でもある越冬キャベツの播種から定植、根切り、冬期の掘取りまでを体験してもらうことで、普段の生活の中で食べている物が、どのように作られているのかを実際に体験し、食への関心や生産者の苦労、自然の尊さを学ぶ機会を作りたいと考え、毎年実施しています。

会の課題などはありますか

新規部員の加入促進を図りたいと思っています。年齢要件は就農後、概ね四十歳までの農業従事者及び農業法人の従業員などを対象としています。部員になれば、様々な活動を通して、部員同士の交流や情報交換の場が数多くありますので、是非加入していただきたいと思っています。

和寒町への要望はありますか

現在、スマート農業の普及が進んでいます。部員の多くが興味を持っており、対象機械の導入も徐々に進んでいます。

GPSを活用した精密作業やトラクターの自動操舵など、今後さらに広く普及させるためにも、和寒町にRTK(GPS)固定基地局を整備していただきたいと考えています。自動運転による高精度な作業が可能となること

で、作業時間の削減や労力の軽減につながるなど、多くのメリットが期待できますので、是非整備していただきたいですね。



▲草刈り作業の後で

今後の目標は

地元はもちろん、全国の子供達や消費者の方に、美味しいと言ってもらえる、安全で新鮮な作物を作りたいと思っています。部員全員がその思いを共有し、積極的に研修会や道内外視察、対面販売などを行うことで、自分自身を磨き農業経営者としてスキルアップを図りたいと考えています。

広報委員の一言

次はオミクロンがー。こんな言葉は使いたくないが「今年も」コロナに振り回されそうである。

基幹産業の農業でも、自然の気象変化に、そして、国からの交付金見直しに頭を抱える厳しい年末であり、年明けでもあった。

「あたりまえ」の事がそうでなくなったり、パニックになったり戸惑いや不安でストレスを抱える。

大災害のようにあたりまえの生活が大きく覆る事象が起こるたびに、先人はその事象に対応し新しい社会を築き今に至っている。

何とかこの難局を乗り越えたい、という確固たる意識を持つことがエネルギーになるのではないだろうか。

逆境にあっても立ち向かう強さをもっている虎。

寅年にあやかり、将来に向けて持続可能な社会を築いていけるよう、前向きな姿勢を常に保ってまいります。(敏一)